

「侍者」

助任司祭 林 正人

先月の初め、白柳枢機卿様の葬儀が東京カテドラルで行われ、私は高円寺教会出身の小池神父様と共に、式典係としてミサに参加しました。「式典係」と言うと厳めしく聞こえるかもしれませんが、ありていに言えば「侍者長」のようなものです。以前はかかる役目は総て神学生が担当していましたが、悲しいかな、現在の東京教区神学生は助祭を除くと僅か3人、司祭も協力せざるを得ません。式中、祭壇上でチョコマカ動く私の姿が見えたのでしょうか、後で沢山の信徒の方から「ご苦労様でした。疲れたでしょう」と労いの言葉を戴きました。疲れなかったと言ったら嘘になりますが、なァに、そこは天下の(?)東京教区、私たち司祭は神学生の時分から、かような式の侍者は慣れているのです。

とは言え侍者の役目は、普通に式に参加するより遥かに気を遣うのは確かです。今回久し振りに、司祭としてだけではなく、「侍者」としてミサに参加し、改めて侍者の務めの重要性和、実際にミサで侍者の役目を引き受けて下さっている方々の苦労を認識しました。

ミサは、信じる者たち(教会)が、共におられる(現存する)キリストと一体となって、天の父に向かい賛美を捧げる式ですが、このキリストの現存は様々な「しるし」を通して現れます。司祭の姿のうちに、聖書のことばのうちに、そして勿論ご聖体に。侍者はこれらのしるしのうちに現存するキリストにピタリ従い、キリストを飾り、引き立てる、とても大切な役割を担っています。また、朗読者を先導する、司祭の祭壇準備を助ける、等々、具体的な動きも重要で、ミサのスムーズな進行は、ほとんど侍者に懸っていると言っても過言ではないのです。

この高円寺教会でも、子どもを含め、沢山の方が侍者、祭壇奉仕の役割を担って下さっています。また侍者以外でも、先唱、オルガン、聖歌奉仕、そして典礼係、これらの方々の働きによって、私たちはより行動的にミサに参加し、よりキリストと一つになることができるのです。この場を借りて、奉仕者の皆様に感謝申し上げます。そして多くの方が、新たにミサにおける奉仕の務めを引き受けて下されば幸いです。